

取組項目における具体策

<p>1 エネルギーの効率的利用及び日常的なエネルギーの節約</p> <p>①工程間の仕掛かり削減、ラインの並列化や部分統合等により生産工程の待機時間を短縮する。 ②前処理・前加工、予熱等を合理化することにより、生産工程の時間を短縮する。 ③事務室、工場等の照明等の取組み、取組み、稼働時等必要な照明に切り替える。 ④ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレ等の照明について、普段は消灯し、使用時のみ点灯する。 ⑤パソコン、コピー機等のOA機器は、省電力設定にする。 ⑥夜間、休日、パソコン、プリンター等の電源を切る。 ⑦エレベーターの使用を控え、階段を使用するよう努める。 ⑧空調の適温化（冷房28度程度、暖房20度程度）を徹底する。 ⑨空調を必要に応じて稼働時間内に限定して使用する。 ⑩使用していない部屋の空調は停止する。 ⑪ブラインドやカーテンの利用等により、熱の出入りを調節する。 ⑫夏季における軽装（クールビズ）、冬季における重ね着等服装の工夫（ウォームビズ）をして、冷暖房の使用を抑える。 ⑬その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(電)、(灯)、(A)、(都)、(N)、(P)</p>
<p>2 設備機器等の適正管理</p> <p>①電力が要時では、負荷遮断、変圧器の遮断を行う。 ②照明器具については、定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理する。 ③熱源機器（冷凍機、ボイラー等）の冷水・温水出口温度の設定を、運転効率がよくなるよう可能な限り調整をする他、定期点検を行う等、適正に管理する。 ④ボイラーや燃焼機器の空気比（空気過剰係数）を低く抑えて運転し、排ガスによる熱損失、送風機の消費電力を削減する。 ⑤空気圧縮機については、必要十分な圧力に低下化する。 ⑥冷暖房終了時間前に熱源機を停止し、装置内の熱を有効利用する。（予冷や予熱時には外気の取り入れをしない） ⑦外気温度が概ね20～22度の中間期は、全熱交換器（換気しながら、冷暖房の熱を回収して再利用する設備）のハイパス運転（普通換気モード、中間期制御運転、熱交換ローター停止）を行う。または、窓の開閉等により外気取り入れ量を調整して室温を調節する。 ⑧冬季以外は給湯を停止する。 ⑨エレベーターの夜間、休日の部分的停止等を行う。 ⑩共用のコンピューター等の電源については、管理担当者や使用上のルールを決める等、適正に管理する。 ⑪空調機については、フィルターの定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理する。 ⑫その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(電)、(灯)、(A)、(都)、(N)、(P)</p>
<p>3 エコドライブ</p> <p>①エコドライブ等運転方法の配慮（急発進・急加速や急ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等）を励行する。 ②タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値（メーカー指定の空気圧）を保つよう努める。 ③排気ガスや騒音のレベルを抑えるため適正な車調整備を行う。 ④共用自転車を導入して、近距離の業務には社用車を使用せず、自転車を利用するよう努める。 ⑤公共交通機関の利用等により、社用車の使用削減に努める。 ⑥社用車について、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車等の低公害車への切り換えに取り組む。 ⑦その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(ガ)、(軽)</p>
<p>4 省資源</p> <p>①会議資料や事務手続き書類の簡素化に取り組む。 ②社内LAN、データベース等による文書の電子化に取り組む。 ③打合せや会議の資料等については、ホワイトボードやプロジェクターの利用により、ペーパーレス化に取り組む。 ④印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるように考慮し、残部が出ないように配慮する。 ⑤両面、集約等の機能を活用した印刷及びコピーを徹底する。 ⑥使用済み用紙、ポスター、カレンダー等の裏紙が活用できる紙は可能な限り利用するよう工夫する。 ⑦使用済み封筒を再利用する。 ⑧コピー機は、枚数や拡大・縮小の誤り等のミスコピーを防止するため、使用前に設定を確認するとともに、次に使用する人に配慮し、使用後は必ず設定をリセットする。 ⑨施工現場で加工する部材の発注方法を直し廃棄物を抑制する。 ⑩その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(産)</p>
<p>5 水の効率的利用及び日常的な節水</p> <p>①生産工程で使用する水を再利用するための設備を設置し、活用する。（中水利用） ②冷凍機や冷水発生機等で使用する冷却水について、循環使用する。 ③塗装やメッキに使用する洗浄水を多段（カスケード）使用する。 ④バルブの調整により水量及び水圧の調節を図る。 ⑤冷水発生機、クーリングタワー等の稼働に伴い使用される水の量が適正に保たれるよう設備の管理を行う。 ⑥雨水の貯留タンクや雨水利用施設を設置等により、雨水利用を行う。 ⑦手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行する。 ⑧社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行する。 ⑨トイレに水流し音発生器を取り付ける等、トイレ用水を節約する。 ⑩蛇口に節水こま（適量の水を流す機能を持つこま）を設置する。 ⑪水道配管からの漏水を定期的に点検する。 ⑫その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(電)、(上)、(工)、(地)</p>
<p>6 廃棄物の発生そのものを抑える取組</p> <p>①品質化等による不良在庫を減らすため、在庫数量の適正化等在庫管理を徹底する。 ②使い捨て製品（紙コップ、使い捨て容器入りの弁当等）の使用や購入を抑制する。 ③リターナブル容器（ビール瓶、一升瓶等）に入った製品を優先的に購入し、使用する。 ④再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用する。 ⑤詰め替え可能な製品の利用や備品の修理等により、製品等の長期使用を進める。 ⑥コピー機、パソコン、プリンター等について、リサイクルしやすい素材を使用した製品を購入する。 ⑦商品の購入時には、簡易包装のものを優先的に購入する。 ⑧納品の際の梱包、包装資材等の削減に取り組む。 ⑨OA機器等の故障時には、修理可能かどうかをチェックし、可能な限り修理することで長期使用に努める。 ⑩その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(産)</p>
<p>7 リサイクルの促進</p> <p>①生産工程から発生する金属屑、紙屑、廃液、汚泥等の回収・再利用のための設備やラインを設け、活用する。 ②紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底する。 ③シュレッダーの使用を機密文書等に限る、シュレッダー処理紙のリサイクルに努める。 ④コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収ルートを確認し、リサイクルを図る。 ⑤発生したごみは可能な限り、圧縮等を行い、減量する。 ⑥回収した資源ごみがリサイクルされるよう確認する。（委託業者等に対して） ⑦食堂における食べ残し、食品残渣等の有機物質については可能な限りコンポスト化（堆肥化）し、土壌に還元、利用する。 ⑧廃食用油のリサイクルルートを確認し、せつけん等への再利用を行う。 ⑨その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(産)</p>
<p>8 環境に配慮した物品等の購入・使用</p> <p>①環境に配慮した物品等の調達に係る方針、基準等を作成し、それらに基づき物品リストを作成し、リストに基づき購入を行う。 ②環境ラベル認定等を優先的に購入する。 ③省エネルギー基準（トップクラス等）達成製品を購入する。 ④再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用する。 ⑤間伐材、未利用資源等を利用した製品を積極的に購入、使用する。 ⑥無漂白製品（衣料品等）、水性塗料等の環境への負荷の少ない製品を優先的に購入、使用する。 ⑦修理や部品交換が可能で、部品の再使用、素材の再生利用が容易な設計の製品を優先的に購入、使用する。 ⑧節水型の家電製品、水洗トイレ等を積極的に購入する。 ⑨コピー用紙、コンピューター用紙、伝票、事務用箋、印刷物、パンフレット、トイレットペーパー、名刺等の紙について、再生紙または未利用繊維への転換を図る。 ⑩木材の調達にあたり、跡地の緑化、植林、環境復元が適切に行われていることに配慮したり、または跡地緑化等を考慮する。 ⑪その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(廃)、(上)</p>
<p>9 再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入</p> <p>①負荷の変動が予想される動力機器において、回転制御が可能なインバーターを採用する。 ②空気圧縮機、冷凍機、ボイラー等のエネルギー供給設備については、新規購入及び更新時には省エネルギー型機を導入する。 ③換気の際に屋外へ排出される熱を回収して利用することのできる全熱交換器を採用する。 ④部分換気システムを導入する。 ⑤従来機との比較でCOPの高いヒートポンプエアコンを採用する。 ⑥天然ガスを利用した空調システム等の省エネルギー型空調設備を導入する。 ⑦天井埋込形エアコンの吹き出しにファン等を付けて、風を擾乱させる装置を導入する。 ⑧従来の変圧器より電力損失の少ない高効率変圧器を採用する。 ⑨エネファーム等、コージェネレーションシステムを導入する。 ⑩ごみ焼却熱やボイラー等の廃熱を利用できる回収システムを導入する。 ⑪コピー機、パソコン、プリンター等のOA機器については、エネルギー効率の高い機器を導入する。 ⑫省電力照明器具の安定器をインバーター式に交換する。 ⑬省電力LED照明器具の安定器を省エネルギー型照明器具に切り替える。 ⑭昼間の太陽光や人の存在を感知し、必要時のみ点灯する設備を採用する。 ⑮あらかじめ設定された時刻や時間帯に、照明の箇所や照度等を自動制御するシステムを導入する。 ⑯厚紙、壁、床等に断熱材を採用する。 ⑰複層ガラス、二重サッシ等を採用し、建物の断熱性を向上させる。 ⑱熱線吸収ガラス、熱線反射ガラスを採用し、日射を遮断する。 ⑳再生可能エネルギー設備を導入する。 ㉑その他</p>	<p>取組報告書関連項目(参考例)</p> <p>(電)、(灯)、(A)、(都)、(N)、(P)</p>

凡例 (電):購入電力 (灯):灯油 (A):A重油 (都):都市ガス (N):液化天然ガス (P):液化プロパンガス (ガ):ガソリン (軽):軽油 (産):産業廃棄物 (上):上水道 (工):工業用水 (地):地下水
なお、取組項目における具体例と関連項目はあくまでも参考例です。取組報告書には実際の状況に応じた削減項目を記載して下さい。